

新入生・保護者の皆様へ

学長 禿 正宣

新たに仁愛女子短期大学生となられた皆さん、ご入学、まことにおめでとうございます。

本学学長として、教職員一同を代表し、心よりお祝いと歓迎を申し上げます。本来ならば、ご来賓や、ご家族の方々にもご出席をいただき、満開の桜のもとでの入学式が挙行されるはずでしたが、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、多人数の集合する式典は残念ながら取りやめとなりました。さらに、授業開始についても、県内での感染拡大の状況からは延期せざるを得ない事情、なにとぞご諒承いただきますようお願いいたします。

式が中止となったことははなはだ遺憾ではありますが、皆さんの入学を祝福するとともに、短期大学での学びを支援していくという気持ちは、いささかも例年と変わるものではありません。おひとりお一人が描かれている、将来への夢や希望に向かって充実した2年間を過ごし、社会の諸分野で活躍する人材として成長されますことを、心より念願し、その支援に向けて、私ども教職員一同が気持ちを新たにしているところです。

さて、仁愛女子短期大学は1964年に開学したもので、半世紀以上にわたり短期大学の特質を活かした女子の高等教育を担ってまいりました。現在に至るまで二万人を超える多くの卒業生を輩出し、多くの先輩が地域で活躍しておられます。また本学は、1898年、今から約120年前に創設された「婦人仁愛会教園」を源とし、教園設立時に仏教経典から採られた「仁愛兼濟」の語を、本学の建学の精神として据えています。この「仁愛」の意味するところは、人々をはもちろん、もろもろの全てとつながり、それらに支えられている自分であるとの認識をもち、そして、支えられていることに感謝をし、それらを敬う精神とすることができます。また「兼濟」の語は「兼ねて済う」と読みますが、「仁愛」の精神のもとに、広く社会のため、人々のための活動につとめて行こうという意味になります。二年間の学びを通して、この「仁愛」の精神を養い、「兼濟」に向けた活躍をするためにも必要な、学科・専攻に応じた専門知識と実践的な力を、一人ひとりに身につけていただくことが本学の願いであります。

そのためにも、学内での授業や教育資源を利用するのみならず、学びの場も学内にとどまらず地域社会に広く求めて、豊かな経験とともに幅広く人間関係も学んでいただきたく願うものです。

昨今の大学教育においても、従来の知識中心の学修から、課題発見やその解決能力を身につけること、すなわち、「何を知っているか」ではなく「如何にして課題解決の手段を見つけ出していくか」という能力を養うことが重要視されるようになり、授業の形態も、アクティブ・ラーニングやPBLといわれる手法も多く取り入れられるようになってきました。また、より具体的に課題を探究するためには、地域社会との連携した学びも必要とされています。

幸いにして、本学では立地する森田地区をはじめ、福井市、永平寺町との連携協定が結ばれております。大学の地域貢献ということもありますが、それぞれの地域課題の解決に向けて協力をし、学生の皆さんにも、ボランティア活動や、授業や卒業研究の一部として参加をしてもらっています。このような機会を通して、実際的な課題に触れると同時に、多様な人間関係も学ぶことで、バランスのとれた社会人となるための基礎力と自信が身につくものと思います。ただ本年は新型コロナウイルスの影響によっては授業形態や活動の場が変更を余儀なくされることもありますが、学修には支障を生じないよう配慮をしております。このような機会を通して、実際的な課題に触れると同時に、多様な人間関係も学ぶことで、バランスのとれた社会人となるための基礎力と自信が身につくものと思います。ただ本年は新型コロナウイルスの影響によっては授業形態や活動の場が変更を余儀なくされることもありますが、学修には支障を生じないよう配慮をしております。ご理解、ご協力のほどお願いします。

「聞いたことは忘れる、見たことは覚える、やったことはわかる」という言葉があります。短期大学は2年間と短い期間ですが、精一杯、学内・学外のいろんな環境を利用して沢山の「わかる」ことを蓄積することで、社会環境の変化への柔軟な対応力も身につけてください。

入学された皆さん一人ひとりが、「美しい世を拓く灯」たる人材を旨として、2年後には心豊かな実践的人材として成長されますことをこころより願い、入学にあたってのお祝いのメッセージといたします。